

## 4 地球環境関係データ

### ■概要

#### (1) 大阪府における温室効果ガス排出量

府における2003（平成15）年度の温室効果ガス排出量は5,872万CO<sub>2</sub>換算トンで、基準年度（1990（平成2）年度、ただし、代替フロン等については1995（平成7）年度）の排出量に比べ1.5%の増加となっています。

また、温室効果ガスの9割以上を占める二酸化炭素の排出量は5,595万CO<sub>2</sub>換算トンで、これは全国の排出量の4.1%にあたります。

#### (2) エネルギー消費量の推移等

府内におけるエネルギー消費量について、1990（平成2）年度からの推移をみると、全体としては増加と減少を繰り返していましたが、2004（平成16）年度は821PJ（PJ=千兆ジュール）となり、1990年度から5.7%の増加となっています。

#### (3) 新エネルギー等の導入実績

府における新エネルギーの導入実績（平成17年度）については、太陽光発電が約38,080kWと、昨年度と比較して約4,400kW増加しています。また、廃棄物発電が約18万kW、天然ガスコージェネレーションが約51万kWなどとなっています。

#### (4) 酸性雨

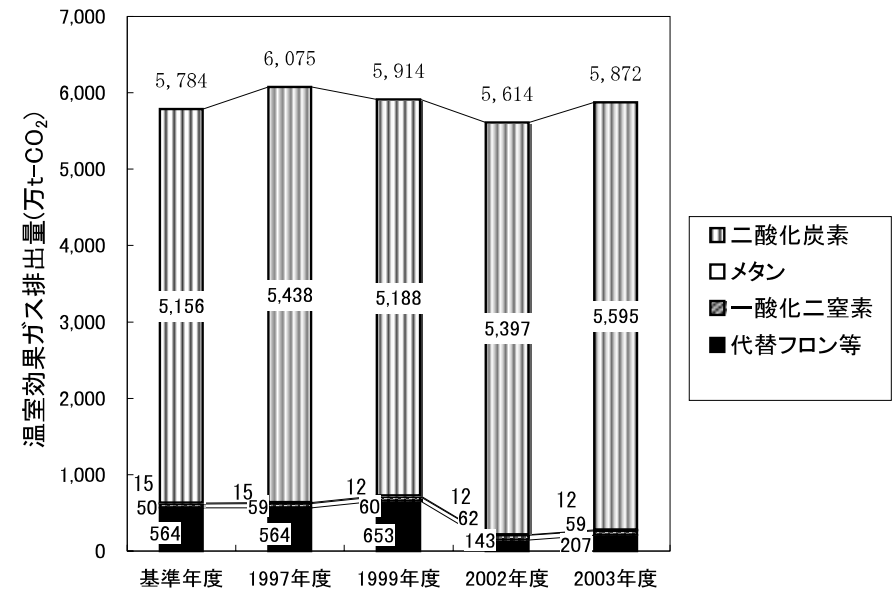
酸性雨（酸性沈着）には、湿性及び乾性沈着の両過程により、土壌、湖沼などの生態系に影響を及ぼします。府では府内市町村と共同して調査を継続実施するとともに、全国的な共同調査や東アジア酸性雨モニタリングネットワーク等に参画・協力しています。これまでの調査結果から酸性雨は、欧米と同レベルで推移しており今後とも注意して観測する必要があります。

## ■地球温暖化関係データ

### 4-1 大阪府における温室効果ガス排出量の推移（推計）

2003年度の温室効果ガス排出量は5,872万トンで、基準年度の排出量と比べ1.5%、2002年度と比べ4.6%増加しています。また、温室効果ガスの9割以上を占める二酸化炭素の排出量は5,595万トンで、基準年度と比べ8.5%、2002年度と比べ3.7%増加しています。

二酸化炭素排出量が2002年度から増加した主な要因は、2002年度以降の原子力発電所の長期停止により、電力の使用に伴う二酸化炭素排出原単位が増加したことが挙げられます。



※ 排出量の算定方法に関する国の最新の知見を踏まえ、過去に遡って排出量を見直しています。